

# 第 10 章 酸性雨調査結果

## 1 目的

近年、地球規模の環境問題として、地球の温暖化やオゾン層の破壊とともに酸性雨が取り上げられ、これらの問題の解決に向けた種々の取組みがなされている。

酸性雨は欧米を中心に土壌や河川、湖沼の酸性化による生態系の変化、森林の衰退等の問題を引き起こしており、わが国においても、関東・中部地方の森林衰退等、多くの報告がある。これが直接に酸性雨（大気汚染）によるものであるとは断定できないが、その複合作用であろうと考えられている。

本県においては、こうした現象は観測されていないが、長期に及ぶ生態系への影響については十分注意していく必要がある。

本調査は、衛生環境研究センターの調査研究として、県内における酸性雨の実態を把握し、発生メカニズムを解明することを目的に昭和60年度から始めたものである。

また、平成6年度からは、環境省の委託を受け、久住町において、国設酸性雨測定局での調査を開始した。

## 2 調査地点

雨水の調査は、大分市、日田市及び久住町の3地点で行った。

各調査地点を図10-1に示す。



番号	調査地点
	県衛生環境研究センター（大分市）
	県林業試験場（日田市）
	県畜産試験場敷地内（久住町）

図 10 - 1 調査地点

### 3 調査期間

平成13年4月～平成14年3月

### 4 調査方法

ろ過式雨水採取装置により一週間及び二週間ごとの降水を採取し、pH計によりpHを測定した。

### 5 調査結果

平成12年度の大分市、日田市及び久住町の各調査地点における雨水のpHの年平均値は、それぞれ4.5、4.7及び4.7であり、環境省が行っている全国調査の結果とほぼ同様の数値であった。

各調査地点の雨水のpHの年平均値の経年変化を表10-1及び図10-2に示す。  
過去5年間では、4.5～5.0の値で変動している。

注) 酸性雨：硫黄酸化物や窒素酸化物等の大気汚染物質の影響により  
雨水のpHが5.6未満になったもの。

表10-1 雨水のpHの年平均値の経年変化

年度	H 9	H 1 0	H 1 1	H 1 2	H 1 3
大分市	4 . 8	4 . 6	4 . 7	4 . 6	4 . 5
日田市	4 . 9	4 . 7	4 . 8	4 . 8	4 . 7
久住町	5 . 0	4 . 9	4 . 8	4 . 8	4 . 7

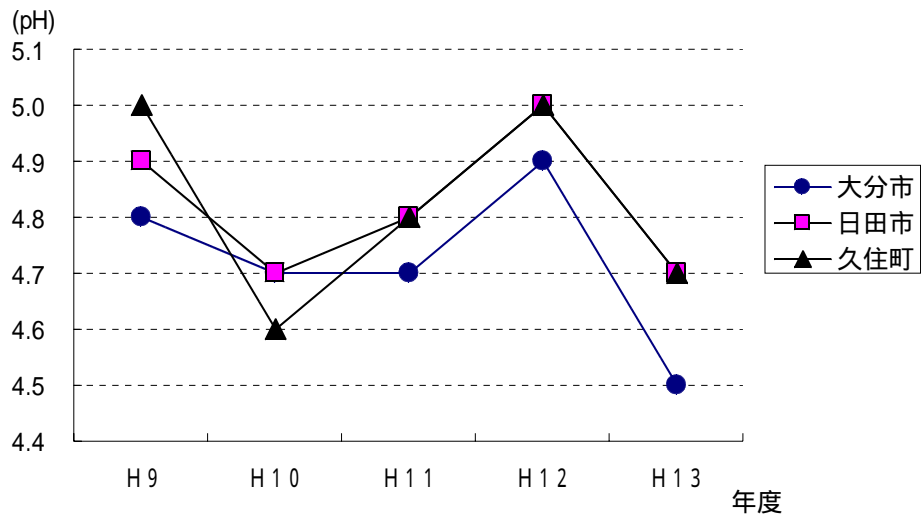


図 10 - 2 雨水の pH の年平均値の経年変化

参 考 全国の国設酸性雨測定所の調査状況

区 分	平成 5 ~ 9 年度
最小値	4 . 5
最大値	5 . 7
平均値	4 . 8